

第6回地域教育 中予ブロックオンライン集会報告書

新・旧若者よあつまれ！
つながり方はいろいろ！
今年はオンラインでつながろう！
Part II

かかわりをチカラに つながりをカタチに

令和4年2月13日(日)13:00~16:10

オンラインにて

主催 地域教育実践ネットワークえひめ

協力 NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構

後援 文部科学省 愛媛県 愛媛県教育委員会

「えひめ教育の日」推進会議 愛媛県教育研究協議会

地域教育中予ブロックオンライン集会開催要項

- 1 趣 旨 中予管内において子どもを取り巻く課題解決、地域の教育力の向上、あるいは地域課題の解決等に向けて日々奮闘している人たちが、「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」を合言葉として元気を分かち合い、新たな展望を抱ける場を設ける。特に、次代を担う新・旧若者たちが自発的・積極的に人・もの・こととつながりながら、地域づくりを共にひろげていく取組の活性化を図る。
- 2 日 時 令和4年2月13日(日) 13:00～16:10
- 3 場 所 サテライト会場を設けず、オンラインで各所
- 4 主 催 地域教育実践ネットワークえひめ
- 5 後 援 文部科学省 愛媛県 愛媛県教育委員会 「えひめ教育の日」推進会議
愛媛県教育研究協議会
- 6 協 力 NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構
- 7 テーマ 新・旧若者よあつまれ！つながり方はいろいろ！
今年もオンラインでつながろう！Part II
- 8 内 容 (実践発表 15分×3)

12:30	13:00	13:10	14:30	14:40	15:55	16:10
入室開始	開会行事	実践発表及び発表者へのインタビュー	休憩	ブレイクアウトセッション アイスブレイク 各セッションの発表		閉会行事

- (1) 開会挨拶 地域教育中予ブロック集会実行委員会委員長
- (2) 実践発表
ア 愛媛県立伊予農業高校食品化学科
イ 愛媛大学教育学部附属小学校「土曜学習」
ウ 松山市子ども健全育成事業 土曜塾
＜ファシリテーター(聞き手)＞
まちづくり学校双海人 教頭 富田 敏 氏
- (3) ブレイクアウトセッション
～若者による実践発表を通してみんなで語り合おう～
- (4) 閉会挨拶 地域教育中予ブロック集会実行委員会副委員長
- 9 参加費 無料
- 10 参加申込み 締切：令和4年1月17日(月)

参加希望者は、1月17日(月)までにGoogleフォームにて申し込む。申し込みが完了すると「参加申込確認メール」が届く。届かない場合は下記の問い合わせ先まで連絡する。

＜申込方法＞ 右のQRコードまたは下のURLより申し込む。

<https://bit.ly/3o1G2qW>

※ QRコードやURLでの申込方法が分からない場合には事務局まで問い合わせる。



※ オンラインでの参加が難しい方は、事務局まで問い合わせる。

＜問合せ先＞ 地域教育中予ブロック集会実行委員会事務局 土井 慶樹
Tel:(089) 909-8780 Mail:chuyoblock2021@gmail.com

第6回地域教育中予ブロックオンライン集会記録

開会前～開会行事

【司会・浅野ひかる（実行委員・愛媛大学学生）】

（開会前：Zoom 操作に関する諸注意）

ただ今より地域教育中予ブロックオンライン集会を始めます。開会にあたり実行委員長眞鍋幸一がご挨拶を申し上げます。

開会挨拶

【実行委員長・眞鍋幸一】

みなさん、こんにちは。本日はよろしくお願ひいたします。コロナのために2年連続でオンラインの集会となりましたが、ご参加ありがとうございます。今回も3組の実践発表、その後、ブレイクアウトセッションを行います。どうか楽しく過ごしていただければと思います。

最近好きなのが「あきらめなければなんでもできる」という言葉です。どうか若い方は夢を持ち続け、中高年の方は昔の夢を、あるいは今の夢を、まだまだできると思いますので、しっかり実現できるよう、一日一日、一時一時、そして、この会もその一時の一端を担うことができれば幸いです。

短くせよと言われておりますので、これで開会のあいさつを終わります。どうか楽しく、この会を盛り上げていきましょう。お願いします！

【司会・新谷垣内春花（実行委員・愛媛大学学生）】

次に、参加にあたっての連絡事項についてご説明します。

まず、ブロック集会の趣旨についてですが、ご覧いただいております画面のとおり、「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」を合言葉として元気を分かち合い、新たな展望を設けることを目的に開催しています。昨年度に続きオンラインでの開催となりましたが、オンラインのメリットを活かして県外からの参加者も加わっていただいています。参加者の皆さんも徐々にこうした開催手法に慣れてきていると思いますので、昨年以上に積極的な発言や意見交換をいただき、ぜひとも有意義な時間を過ごしていただきたいと思います。

次に本日の会の流れについてですが、開会行事終了後、13：10 からファシリテーターや団体の紹介、実践発表、発表者へのインタビューと質疑応答を行います。その後14：30 から休憩を挟みまして、14：40 から15：25 までブレイクアウトセッション、15：25 から15：55 までグループごとに発表を行い、情報共有をしたいと思います。そして15：55 から講評を行い、16：05 から閉会行事を行うという流れで進めて参ります。

時間的にかなりタイトなスケジュールになっておりますが、ご協力の程宜しくお願ひ致します。

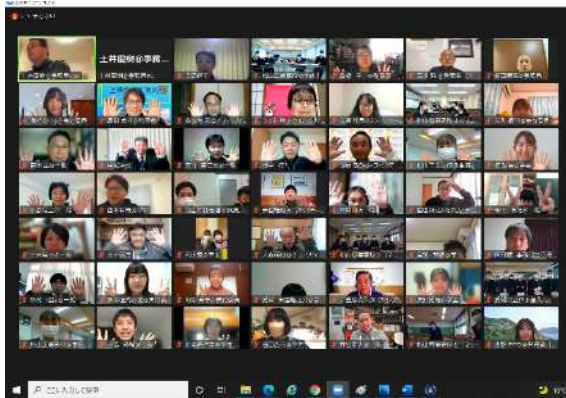
14：40 からのブレイクアウトセッションでは、アイスブレイクのために自己紹介やお題についての紹介をしてもらい、その後協議という形を取ります。またブレイクアウトルームは様々な年齢が混在するようにグループを作っております。ぜひ、積極的・主体的に参画していただき、かかわり、つながりを広げていただけたらと思います。

また、情報交換をするためにチャット機能を使っていただき、名刺交換をするなど、つながりづくりをすることができます。ぜひご活用ください。

さらに、さまざまな年代、所属、立場の方がいる交流集会です。お互いが気持ちよく参加するため、次の点に御協力を願ひます。

1つ目、お互いをリスペクトすること。2つ目、お互いを認め合うこと。3つ目、お互いの秘密や情報は持ち帰らないこと。以上の3つの点にご協力お願いいたします。また Zoom を使った集会ですので、円滑な運営のためにもご協力いただきたい点がございます。1つ目、音声のミュートを活用すること。2つ目、リアクションをすること。3つ目、簡潔に、完結すること。4つ目、人の話は最後まで聞くこと。5つ目、カメラ映りを気にして参加すること、の5つです。ご協力、よろしくお願いいたします。

それでは、長くなりましたが最後に記念撮影を行いますので、笑顔で、ポーズをとって、「いいよ」と言うまでよろしくお願いいたします。～事務局・土井による撮影～ありがとうございました。以上で開会行事を終わります。



実践発表

【司会・阿部眞子（実行委員・愛媛大学学生）】

それでは、ここから実践発表を行います。発表者への感想や質問はチャットにご自由に書きこんでください。

はじめに本日の進行をお願いしている富田さんをご紹介いたします。

富田敏さんは東京都出身で平成 23 年に伊予市双海町に移住されました。移住後は「地域おこし協力隊」として双海町の魅力を発信するための仕掛けを次々と考え、地域の活性化に貢献されました。また、任期終了後も双海町に定住され、現在では地域にとって欠かせない存在となっております。

毎年ご参加いただいている本集会への意気込みをお伺いしたところ、「コロナ渦で各地のまちづくりが停滞するなか、わたくし自身の活動も停滞気味です。今日は若い皆さんの取り組みをお伺いし、自分の進むべき道を考えるきっかけにしたいと思います。」とコメントをいただきました。発表される皆様の魅力をより一層引き出していただけの富田さんは、この会においても、なくてはならない存在となっております。

次に実践発表の団体の紹介です。

愛媛県立伊予農業高等学校食品化学科の皆さんは「『植物工場』認知度向上のための教育コンテンツ開発—教育でつなぐ農業の魅力、とどけ日本の未来へ—」というテーマで発表します。“農業の魅力を伝えたい”という思いから、小学生を対象とした教育コンテンツを開発しています。“身近に”“手軽に”“簡単に”体験できるように工夫して、地域の小学生との交流学习をとおして、農業の魅力を伝える活動を行っています。

続いて愛媛大学教育学部附属小学校は「子ども主導のプラゴミ激減プロジェクト」のテーマで発表します。愛媛大学教育学部では教員と学生が共に、SDGs の達成に寄与しつつ学力を高めるプロジェク

ト学習の手法を開発しています。これは2年計画の文部科学省委託事業で、今回はその1年目の成果と今後の課題について報告します。

そして松山市子ども健全育成事業 土曜塾は「学習支援と居場所づくり」をテーマとして発表します。学習塾に通っていない中学生を対象に、毎週土曜日に大学生が学習支援をしています。学力の向上だけでなく、中学生の居場所づくりとしての役割も果たしています。現在、市内3教室で開校しており、学生が主体的に運営しています。

以上で紹介を終わります。さて、いよいよここからは、皆さんお待ちかねの実践発表に移ります。司会進行は先ほど、ご紹介した富田さんです。それでは富田さん、よろしくお願いいたします。

【進行・富田敏さん】

はい、みなさんこんにちは！富田です。毎年恒例で、昨年からはオンラインになってしまいましたが、みなさんの積極的な参加で楽しいひとときにしたいと思っています。よろしくお願いいたします。

早速ですが、3団体それぞれの発表をお願いしたいと思います。さきほどの紹介の順番で、伊予農業高校食品化学科のみなさん、発表よろしいですか？

【愛媛県立伊予農業高等学校食品化学科の生徒さんによる発表】

わたしたちは、愛媛県立伊予農業高等学校食品化学科に所属しています。本日は、わたしたちが研究していることについて紹介します。よろしくお願いいたします。

伊予農業高校は、生物工学科、園芸流通科、環境開発科、食品化学科、生活科学科、特用林産科の6つの学科を有する県内最大の農業高校です。それぞれの学科で特色のある教育活動が行われています。わたしたちは食品化学科に所属し、食品の製造、食品の化学性、食料生産、食育などについて学習しています。良かったらぜひホームページも見てみてください。

さて、前置きが長くなりましたが、ここからわたしたちの研究を紹介したいと思います。

日本の新規就農者の推移は微増減を繰り返し、平成23年に比べると（10年で）約3,000人減少しています。わたしたちは思いました、「農業の魅力を伝えたい」。

これからの農業はさまざまな形態があります。「スマートアグリ」と言われる時代です。わたしたちはその一つである「植物工場」に注目し、その認知度の向上のための教育コンテンツの開発を目指しました。

研究計画：①Micro Plant Factoryの開発、②5つの教育的要素を備えたMPF、③交流学习の実施、④成果と今後の課題を説明します。

①Micro Plant Factoryの開発

Micro Plant Factory（以下MPF）＝極小植物工場、これがわたしたちが開発した教育コンテンツです。MPFの開発に至るまでには、重要なプロセスがありました。MPFの前身である水耕栽培キットを、2019年度卒業生が開発しました。この教育コンテンツを、栽培体験と学習を合わせて1パックの教育コンテンツとして活用することをコンセプトとしています。農業や食に対する興味や関心を、学習を行うことでさらに深めてもらうことが目的です。この教育コンテンツで4回の交流学习を実施し、交流学习の事前・事後アンケートから、農業や植物、食に対する意識が向上した、という結果を得ることができました。

これが実際に育てている白菜です（実物提示／ペットボトルから青々しい葉が伸びている）。このような形で、野菜を簡単に育てることができます。これは、マリーゴールドです（実物提示／たくさん

の花が咲いている)。このように、野菜だけでなく草花も育てることができます。

わたしたちの研究を多くの人に知ってもらうために、地域教育実践交流集会に参加しました。この発表会は300名以上が出席する大規模なものでした。文部科学省総合教育政策局地域学習推進課の下田力さんからアドバイスをいただいた様子がありますので、ご覧ください。

<映像>

(生徒さん)「わたしたちが開発した教育コンテンツとしての水耕栽培キットについて、どのように思われましたか？」

(下田さん)「はい、非常に素晴らしい取り組みだと思いました。まだまだ改良されると説明の中で仰っていたので、みんなでよく話し合いながら、もっともっと良いものになったらいいなと思います。」

下田さんからアドバイスをいただき、教育コンテンツの有効性に自信を持つことができました。新型コロナウイルスの感染拡大により休校となり、研究は一時中断しましたが、2020年6月から研究活動を再開しました。

室内であるにも関わらず、ハダニやアブラムシなどの害虫が発生していました。そこで、IPM(総合的病害虫管理)により防除を行うことを目指し、中でも、化学的防除法において化学合成農薬を使用しない研究を進めることにしました。「えひめAI」という発酵資材を用い、その中にトウガラシを入れ、カプサイシンを抽出することで、食品由来の発酵自然農薬を完成させることができました。害虫発生個所に塗布したところ、一定の効果がありました。

2021年2月から、IPMによる防除のうち、物理的防除ができないか検討を進めました。初代水耕栽培キットは栽培部が露出していますので、ここに害虫が発生します。そこで、ペットボトルをもう1本使い、下部を切り取り縦に切り込みを入れ、初代水耕栽培キットにかぶせることにしました。二代目水耕栽培キットの完成です。効果は抜群で、害虫の発生はありませんでした。このように、物理的に害虫を寄せつけない閉鎖型の水耕栽培キットを完成させることができました。

二代目水耕栽培キットに「無農薬」「促成栽培」「省力栽培」「安定生産」という植物工場のメリットを加え、さらに「エコロジー」という要素も加えて、新たな開発を行うことにしました。ミーティングを何度も行い、ソーラーパネル付きLED照明を採用することに決めました。ここからは開発が一気に進みました。二代目水耕栽培キットの上部を切り取り、市販のソーラーパネル付きLED照明(庭の土に刺して使用するタイプの商品を分解し一部使用)を取り付けます。そして、2021年4月下旬、MPF(三代目水耕栽培キット)が完成しました。

これは、二代目栽培キットです(実物提示)。ペットボトルを上にかぶせることで、外部環境から遮断することに成功しました。これで害虫の被害はなくなりました。取り外しも簡単です。これが(三代目の)MPFです。上部にソーラーパネル付きLED照明を取り付けており、取り外しも簡単です。

晴天時の昼間は、太陽光を利用した光合成、雨天等で光合成が不足した際は、ソーラーパネルで蓄電した電気を利用したLED照明による光合成をさせることができます。これで、天候に関係なく光合成を補助する体制を整えることができました。促成栽培をすることができます。また、使用電力は太陽光の蓄電ですので、電気代は0円です。エコロジーです。

栽培実験では、サニーレタスを用いました。二代目水耕栽培キットとMPFをLED区と比較しました。播種後、2週間目までは大きな差異はなく、3週目以降から大きな差異が生じました。収穫時には、LED区は6グラム多く収穫できました。収穫量は2回ともLED区の方が多く、安定生産をすることができます。さらに、管理は、減った養液を足すだけです。省力栽培が可能です。

②5つの教育的要素を備えた MPF

MPFの開発時、「農業教育」「環境教育」「食育」「ICT教育」「エネルギー教育」ができる教育コンテンツとして完成を目指し、それらを兼ね備えたコンテンツとすることができました。これらは相互に関連します。また、オリジナルの学習冊子を作成しました。学年別に学習冊子を作成することで、年齢に応じた学習内容とすることができ、これにより理解が進みます。そして、理解できることには興味・関心が高まりますので、農業や食に対する意識が向上すると考えています。

わたしたちはこのMPFを用いて、リモートを含めた交流学习を実施。特に、小学校を中心とした普及啓発を行います。また、地域教育活動に参加することで、経験を積みたいと思います。学習冊子も常に改訂を加え、理解が進むものとしたいです。そして、精度の高い教育コンテンツとしていきます。これらの活動を継続することで、農業の魅力を感じた児童が、将来担い手となる可能性を高めていきたいと考えています。

今から紹介するのは、三代目水耕栽培キットをさらに改良させた四代目水耕栽培キットです。四代目水耕栽培キットの特長を説明します。これが四代目のMPFです（実物提示）。酵母、アルギン酸ナトリウム、塩化カルシウム、この三つを用いて、固定化酵母ビーズを作成します。この固定化酵母ビーズがアルコール発酵を行う際、二酸化炭素が放出されます。その二酸化炭素が、このチューブを經由して、隣の容器に入ってきます。それにより光合成が活発に行われ、野菜の生長が促進されます。こちらの容器にはLED照明が取り付けられており、取り外しも簡単です（実演）。

③交流学习の実施

2021年7月12日、佐礼谷小学校全校児童15名と交流学习を実施しました。とても楽しく交流することができ、また、水耕栽培や植物工場について知ってもらうことができました。2021年9月16日に第2回目の交流学习を行いました。新型コロナウイルスの感染拡大により、リモートでの交流学习を実施しました。リモート交流学习の指導案や学習内容の作成をするのは大変でしたが、楽しく交流学习をすることができました。

④成果と今後の課題

成果1「MPF開発に成功」：4月から開発を始めましたが、チームで検討をし、スピード開発で完成しました。

成果2「MPFへ5つの教育的要素を構築することに成功」：開発時点で5つの教育的要素を構築することを考えていました。そして、それらを実現することができました。

成果3「教育効果を高めるための学年別学習冊子の完成」：交流学习で使用する学習冊子は、学年に応じたテラーメイドです。今後も対象学年に応じて改訂、作成していきます。

成果4「小学校の先生方からMPFは『農業の魅力を伝えることができる』と評価された」：小学校の先生方からたくさんのアドバイスをいただきました。インタビューの様子をご覧ください。

<映像>

（佐礼谷小学校教頭 岡井先生）「これは、かなり伝えられると思います。小学生の想像を超えているようなことですので、わたしたちにとっても同じような感覚で、これからの未来の農業というのはこういうものなんだろうな、、、と実感することができました。」

（佐礼谷小学校校長 中尾先生）「小学生ももちろん興味を持てるし、高校生が人に教えるためには、しっかり理解してないといけないので、よく勉強していると思うんです。その高校生たちも、農業の世界に関わっていけるんじゃないかと、両方のプラスがあるようにわたしは思います。」

小学校の先生方のアドバイスをいただき、MPFの有効性に自信を持つことができました。

今後の課題（スライドより：MPF のハード面の欠点解消、植物の生長に関する環境制御の検討、地域の小学校を中心とした普及活動〈実践の積み重ね〉、実際の植物工場への視察・見学、教育効果の検証方法についての検討）これらの課題をこれから検討し、次の課題の設定としたいと思います。現在、植物の生長に関して、どのようなスペクトルの波長が最もよく成長するか、照射時間は何時間が最も生育に良いかなどの研究を行っています。この研究をさらに発展させて、交流学习にも活用していきたいと考えています。

コロナ禍で、わたしたちは地方でできる研究や活動の大切さ、重要性について知ることができました。そして、感染に留意しつつ、地域の小学校と交流学习ができたことは、とてもありがたいことだと思いました。地道な活動をこれからも続けていきます。教育はつながり続けます。

教育でつなぐ農業の魅力、とどけ日本の未来へ。

以上で発表を終わります。

【進行・富田さん】

はい、伊予農業高校食品化学科のみなさん、ありがとうございました。非常に分かりやすく説明いただきました。ありがとうございます。

それでは、次の発表は愛媛大学附属小学校土曜学習ですね。よろしくお願いします。

【愛媛大学教育学部富田英司先生「附属小学校 土曜学習」】

愛媛大学教育学部の富田と申します。本来、もっとフレッシュなメンバーでお届けしたかったのですが、ゼミの学生が引っ越しシーズンで断られてしまいましたので、わたしが発表することになりました。

この事業、附属小学校で行ってはいいるのですが、取り組みの主体は教育学部の教員4名と学生7名ほどです。土曜学習という機会を使って取り組みを進めています。こちらの土曜学習は、もちろん「附属小学校の土曜学習」で、PTA と連携して、そこに通う児童を対象に設けられた学習機会です。附属小学校らしいところとしては、子ども自身が知的好奇心や運動・芸術などに対する興味・関心を一層高めるとというのが主な目的にはなっているのですが、そこに大学教員や大学生・大学院生が指導者となって研究開発・教育力を高める、といったねらいも含まれています。

今年度、ご承知のようにまだまだコロナの影響が大きいので、一時対面で実施したときもありましたが、リモートを併用して進めています。今回ご紹介するのは「プラゴミ激減プロジェクト」という名前で進められているものですが、土曜学習ではそれ以外にもミュージカルや図画工作、体育、シトラスリボンのワークショップなど、多数開催されています。

今日ご紹介する「プラゴミ激減プロジェクト」ですが、SDGs をテーマとして、さきほどの伊予農業高校さんがされているような、実際に地域に対して働きかけるような取り組みになります。小学生が中心となりますので、できることは限定されてきますが、PBL (Project Based Learning) = プロジェクト中心の学習になります。

スライドの右側にあるようなチラシを配布して附属小学校で募集したところ6名の児童が参加してくれています。学生の方は、わたしの授業を中心に呼びかけたところ、今日実行委員として活躍している阿部さんを含めて6名とわたしのゼミ生を加えて7名が参加し、ここに書かれている教員（井上昌善先生、藤原一弘先生、竹下浩子先生、富田英司先生）が協力しながら進めています。

この取り組み、実は「読解力を育成する取り組み」として始めています。多くの読解力育成の取り

組みは、やはり「本を読ませる」というもので、本が苦手な子は逃げて行くようなものがほとんどだという認識です。そうではなく、読解・読むというのは、何かをしようと思えば必ず発生するものだと思います。子どもたちが自分の関心のあることを進めれば自然と読解力がついていく、ということで構想しています。このあたり（カリキュラム）の細かいところは、今回は少し省略します。

今は1年目ということで、附属小学校の土曜学習を中心に授業の基本的な形態を研究していますが、来年度、もしご協力いただける学校があれば、公立学校や児童クラブ、社会教育の場等で、今回活用したものを使っていたいただければと思っています。今日ご参加のみなさんの中で、ご興味のある方がいらっしゃったらぜひご連絡ください。

今回は「プラゴミを減らしていく」という取り組みですが、その中で「読解力も培っていく」ということで、アルバイト学生のみなさんの協力を得ながらいろいろと教材を作っていました。こちら（スライドに18個の教材名）がその一覧です。まだ少ないのですが、今回取り組んでみて気づいたのが、今のプラゴミを巡る現状や削減義務化を定める法律について、その解説は子ども向けの記事がほとんどないということ。そこで、既存のニュースやネット上の記事を、子ども用にアレンジしていかなければならない、そういう作業を大量にやっていくことで、子どもの読解力の基盤になっていくのではないかと思います。

今回、リモートということもありましたが、対面で実施した場合でもICTをフルに活用していこうというコンセプトで行っています。これは今回の取り組みがGIGAスクール構想をさらにどう生かすかということでもあったので、ロイロノートというもの、教師側も参照しますが、教師側が使っているオンライン上のスペースに子どもたちもリアルタイムでアクセスしながら、考えたこととかやっていくことを共同でつくっていくというような形でICT環境を活用しています。

今回は詳しいご紹介はないのですが、この取り組みは、子どもたちに一人一台、学校のものとは別にタブレットをお貸ししています。家庭に持ち帰って、勉強に活用してください、という形で渡しています。その中で、子どもたちがどんなページを見て、どんなアプリを立ち上げて、どんなことを記述して、というのが全て記録して残るようなアプリケーションが入っています。その中で随時情報を集めながら、子どもたちがどれくらい日常的に、読解を含めた、タブレットを活用した学習——わたしは遊びでも良いと思っています。よく「タブレットを遊びには使わないように」と学校で言われると思うのですが、それはほぼナンセンスだと思います。「遊び」と「学び」の区切りというのは本来ないので、特定のことを「遊びだ」として制限することで、学び自体の質が下がるのではないかと、そちらの方が危惧すべきことだと思っています。もちろん不適切なウェブサイトにははじめからアクセスしないことが重要なのですが——そういった基礎資料を得るために、データを収集しています。

これは、Zoomを用いた遠隔授業の一場面です。夏に長浜漁協さんに海洋プラゴミについて遠隔でインタビューした時の様子です。

こちらはさきほど紹介したロイロノートというもので、松山市の小学校ではほぼ使われているかと思いますが、共有ノートですね。ノートを生徒側と先生側が共有する機能というものを使っています。この機能が意外とまだ使われていなくて、特にテストや課題という時でなくても、授業中でも一緒に同じところに書き込んでいくという使い方ができます。これも課題がないわけではなく、授業中に関係のないことをしてしまう子もいたりしてしまうのですが、土曜学習は通常の授業ではないので、そこはあまりやかましく言わないようにしています。

たとえばこのロイロノートを使って読解をする時に、資料の中に直接書き込みながら進めることができますので、読解資料を読みながら分からない言葉や気になるところに印をつけてもらおうと、その

場で教師側がそれを参照しながら次のコメントだったりアシストだったりにつなげやすいのではないかと考えています。

今回の取り組み、わたしのほうが基本的なコンセプトや中心的なことをやってはいますが、学生の参加ということも非常に重要だと思っていて、できるだけいろいろなことを学生に主体的にやってもらいたいと思っています。大学生が先生として児童に関わっていますので、その中で学生がどういう役割をしていったかですが、一週間のルーチンとしては、打ち合わせで予定を確認した後に、授業リーダーと授業補助者という役割がありまして、授業リーダーは実際に「こんにちは」から始まって、授業を進めていく担当で、補助者は同時に少なくとも2-3名いて、話し合いの中で子どもたちの発言を引き出したり、対面等で実験をする場合には実験の補助を担ってもらったりします。その他、いろいろな作業や記録とかをお願いする場合はアルバイトとして活動してもらったりしています。

この事業で、授業内での子どもの学びと役割というところでは、子どもの活動としては大きく分けてテキストを読むということ、話し合いをするということ、それから場合によっては実験や観察をするという機会があります。テキストを読んでいる時、学校でよく行われる国語での読解は細かく読んでいくことが多いのですが、今回は、テキストに必ず一つか二つ重要な考えが入っているというものを用意して、その考えを選び出してくる、それを自分の言葉でラベル付けする、そしてその考えを新しいアイデアに生かしていく、自分たちの活動にどう使えるかということを考えていく、というような「読み」にしています。それをここでは「概念型の『読み』」と呼んでいます。今回は詳しい話は長くなりますので割愛します。

話し合いの時は2-3人のグループに分かれ、そこに大学生1-2人が入って子どもたちの理解や考えを引き出していく、という役割を担ってもらっています。このあたりまではどちらかという学校の授業とそう変わらないと思います。授業全般的なところ、方向付けのところなのですが、子どもが活動の中でふといろいろな発言をするわけですが、その中で出てきた言葉で活動の方向性を決めていきます。そういうところが子どもの主体性と関連づけられるところかと思っています。ただ本来はもうちょっと子どもの方から「どうしてもこれがやりたい」というのが出てきてほしいと思いながらやっています。一方で、特定の、ピンポイントでは「これをしたい」という発言が出てきますので、その「これをしたい」という言葉を拾いながら、「じゃあ、次、これをしようか」と授業を展開して行っています。

これまで、昨年6月から今年2月までで、だいたい四つの活動をやってきました。まず一番上の「ブラごみの現状を知る」ということで、ニュース記事を読んだり、さきほどの漁協さんやごみの再生に取り組む事業所さんなどへのインタビューなどで現状を知る、という活動を行いました。

その後、大学の先生からの情報提供だったと思いますが、分解性のレジ袋、特に愛媛県の福助工業さんが海洋でも分解されるレジ袋を作りつつある、という情報を得ました。「分解性のレジ袋というもので、本当に問題が解決されるのだったらいいね」という話で子どもたちも興味を持って、性能を評価するような取り組みをしました。

それから三番目、次の展開として、「自分たちがやってきたことを、校内のみんなにももうちょっと知ってもらいたい」という意見が出まして、「動画を作りたい」とか自分たちがやっている実験——分解性レジ袋の性能評価実験、今もこれは一部継続中なのですが——を校内で広く知ってもらうための活動をしたい、という話が出て、取り組んだ時期が少しあります。

そして現在は四番目の「自主上映会」です。これは大学の教員からの提案で、竹下先生が「マイクロプラスチック・ストーリー」という映画——うしろに宣伝がありますが、もしご興味があればQRコードを読み込んでぜひお申し込みください——があって、これはニューヨークの小学生たちが、自分た

ちの学校からニューヨーク市に活動を広げて、プラスチックごみを減らしていこうという取り組みを行った、という映画です。この自主上映会をやりませんか？と呼び掛けたところ、かなり子どもたちが乗り気で、今、その準備に向けて、司会だったり広報だったり、あるいは質疑応答のコーナーだったり、役割分担してやっていこうということで、今、進めていっています。

ご紹介してきたように、これまでいろいろな活動が行われてきました。それぞれの中に、教師側が提供したような活動の契機、あるいは、子どもたちが自分たちから言い出したきっかけというものがあって、混ざり合ってはいます。それに応じて、こちらの方で学習環境を準備したりしています。いずれにしても、子どもの反応は、それぞれの子どもの中にはいろいろと得るものがあり、感じるものがある、その中で子どもそれぞれの形で主体的に取り組んでいっている、という状態です。

今、ご紹介・ご説明の中にもあった上映会ですが、こちらがポスターです。これは大学生が主にはまとめてくれたのですが、これを作っていく中では子どもたちのアイデアを盛り込みながらやっています。これは事情がありまして、本当はもっと子どもらしいポスターになれば一番良かったのですが、時間がなくて、子どもたちにアイデアを出してもらって、それを大学生がパワーポイントでまとめていったので、子どもが作った感じがほとんど見受けられないものになりましたが、でも実際には、そのプロセスには子どもたちが関わっています。

最後に、子どもたちが関わっている様子が分かるものをお伝えし、附属小学校の中では既に流されていると思うのですが、宣伝のビデオを子どもたちが作りたいということで作りました。ただ、作る時も当然コロナ禍でしたので、ビデオを作るのも遠隔で行いました。編集はあまり子どもたちに任せることができませんでした。中身は子どもたち全員知っています。プライバシーに配慮した形になっていますので、顔の部分に修整を加えておりますが、見ていただければと思います。1分ちょっとです。

<映像：子どもたちによるプロジェクトの紹介、上映会の案内、映画の概要紹介、マイクロプラスチックの問題などのうったえ>

最後、簡単にまとめたいと思いますが、今は6名という、もともとプラごみに非常に関心が高い子どもたちが集まってやっているの、かなり動機付けも高いですし、自分たちの情報収集も、いつも毎週毎週やっているのがパソコンの記録からも見て取れます。でも、これをもっと広げていった時に、個々に興味関心は違ってくるわけですので、課題としては当然ですが、どうやって個々の興味関心の広がりに対応して大人たちがついていけるか、というところを今後検討できていけたらと思います。

以上になります。ありがとうございました。

【進行・富田さん】

ありがとうございました。(映像の最後、子どもの顔の)モザイクがちょっと外れるところ、あれはねらいなんですか？

【富田先生】

あれはすみません、機械の限界でございます(笑)。

【進行・富田さん】

そうなんですね。思わずふきだしてしまいました。どうもありがとうございました。

それでは、3組目、松山市子ども健全育成事業 土曜塾のみなさん、よろしくお祈りします。

【松山市子ども健全育成事業 土曜塾 浅野さやかさん】

愛媛大学教育学部3年の浅野さやかと申します。わたしは南予の伊方町の生まれで、三崎高校の出身です。わたしの背景（Zoom 背景：蜜柑畑と海の風景）、良かったらご覧いただけたらと思うのですが、ここがふるさとで、地元は三崎地域で柑橘栽培がさかんなところ。中予ブロック集会の実行委員会を務めておりました、今年度から土曜塾にも関わらせていただいておりますので、今回はわたしが事例発表を行います。よろしくお願いします。

まず、土曜塾というものですが、毎週土曜日に松山市内の中学生に対して大学生が学習支援を行うという取り組みです。実施主体者は松山市青少年育成市民会議という団体です。この松山市青少年育成市民会議について軽く説明します。平成16年に松山市子ども育成条例というものが制定されました。この理念として「社会全体で子どもたちを守り育てていきましょう」と掲げられました。これを受けて平成18年に松山市青少年育成市民会議が設立されました。この市民会議は、以下の56団体（公民館連絡協議会、小中学校PTA連合会等）で構成された社会教育団体です。

さきほど社会教育団体と申し上げましたが、そもそも社会教育とはどういうものなのかというと、この水色の部分が人が生まれてから亡くなるまでの間だとすると、このピンク色のところが学校教育です。社会教育というのは、学校教育以外のすべての生涯を通じて行われる教育です。具体的に言うと、学校教育が生きていく上で必要な学力を身につける場だとすると、社会教育はその他の社会生活に必要な力を身につけていきます。たとえば、知識だったり知恵だったり、しきたり、ふるまいといった、生きていくために必要な力全般を指します。

市民会議は、土曜塾以外にもさまざまなイベントや事業を運営しています。

では、ここから土曜塾のご紹介に入っていきます。まず、土曜塾の理念は「自主・自学・自立」です。平成24年に開講し、厚生労働省の生活困窮者自立支援事業と松山市子ども健全育成事業の二つが合わさって土曜塾が始まりました。松山市内に住んでいる生活保護・低所得者世帯の中学生を対象に学習の場を提供しています。学習習慣を身につけ、自信や学習意欲を向上させることで、将来へ希望をもって進路選択し、職に就くことを目標としています。

みなさん、この数字（スライドに「25～35%」と表示）、何を示しているか分かりますか？この数字は実は「貧困の連鎖」を表しています。親が生活保護を受給していた場合に、その子どもも生活保護を受給することになる割合が25～35%とされています。

この貧困の連鎖を断ち切るというのが土曜塾の第一の目的です。職に就くことによって一定の収入を得る。子どもが自立し、貧困の連鎖を断ち切るということを目指しています。また、塾に参加してくる中学生の家庭環境・生活環境はさまざま、そうした中で中学生の居場所づくりとしての役割も果たしています。これが土曜塾の二つ目の目的だと言えます。家庭環境と学習習慣改善への包括的な支援ということで、福祉と教育の両面を土曜塾が担っているとと言えます。

こちらが土曜塾の関係図ですが、この（松山市）保健福祉部と各中学校と教育委員会の連携の橋渡しとして土曜塾を運営している市民会議があります。つまり、市民会議が福祉と教育の連携の橋渡し役を担っているということになります。

では、ここからは、土曜塾の実績についてご紹介します。平成24年の開校当時は、土曜塾に参加できる対象が生活保護受給・非課税世帯でした。そして、平成29年に、ひとり親世帯と児童扶養手当全部支給世帯も追加されました。令和2年、コロナウィルスによる減収世帯＝収入が減ってしまった世帯も追加されました。そして昨年、児童扶養手当一部支給世帯も対象になりました。つまり、土曜塾を開講して以降、参加できる中学生の枠が段々と広がっていることが分かります。

こちらは、参加者数の推移と進学実績です。まず左半分（年度ごとの参加生徒数）をご覧ください。開講当初、50人不足だったのですが、今年度、125名の参加をいただいています。年々と参加者数が増えていることがわかります。次に右半分ですが、こちらは高校への進学実績です。現段階で、土曜塾に参加してくれた全ての中学生が高校に進学しています。

次に、運営体制についてです。松山市内で3教室開講していて、各教室に大学生のサポーターリーダーがいます。教室の準備だったり、一日の運営・進行、サポーター参加状況の監督・報告等を行っています。そして、大学生のサポーターがそのほか一緒になって運営している、という体制です。

わたしたちは、教室の雰囲気づくりにも力を入れています。どうしたらより多くの中学生が参加してくれるか、来続けてくれるかということや、どのようにすれば学習の理解度が進むかということを考えています。「学習支援・成果を上げる」ということと「生徒の居場所づくり・楽しい教室づくり」という二つの課題に挑戦しています。

これが（写真）土曜塾の開講式の様子です。こちらが実際の学習をしている様子です。塾と言っても一斉に授業を行う形式ではなく、中学生一人に対して大学生一人がついて学習支援を行っています。やることもさまざまで、学校の宿題を教えてもらう子もいれば、授業の復習・予習をしたり、分からないところを教えてもらったりと、本当に子どもたち一人一人の進度に応じて学習支援を行っています。

この写真は、受験シーズンに、中学生に向けて大学生がお守りを作っているところです。こちらはレクリエーションの様子です。毎週土曜日、一日土曜塾があるのですが、午前と午後でレクリエーションの時間を取っています。勉強の息抜きにもなりますし、すごく楽しく盛り上がる時間です。こちらはバーベキューの様子です。今はコロナでできていないのですが、夏休み、こうしたイベントなども行われています。以上、土曜塾のご紹介でした。

ここからは、わたしは今年度からこの土曜塾に参加し始めたのですが、考えたこと・感じたことをお話したいと思います。一つ目は、やはり中学生が、分からなかったところが「分かった」というような声をもらった時、すごくやりがいを感じます。二つ目に、生徒の居場所になっているなということを感じます。土曜塾の二つ目の目的でもあるのですが、中学生同士で友達を作ったりとか、大学生との会話を楽しんでいる様子を見ていると、ここが一つの生徒の居場所になっているんだなと感じます。三つ目に、学生が主体的に運営をしている、ということです。事務局のスタッフさんや塾長は「見守り」という形が基本で、一日の運営は大学生が行っています。やはり社会に出ていく上で、一つのを自分たちでつくっていくスキルだったり運営する力というのは大事になってきますので、学生側の学びにもなっています。

今後の課題と目標について、お話しします。今年度の参加者が125人と申し上げましたが、実質的に、実際に継続して参加してくれている生徒は3割程度です。この「3割」という割合を多いととらえるか、少ないととらえるかはそれぞれだと思うのですが、やはりこのような機会を存分に中学生に活用してほしいですし、塾に継続して参加できる生徒を増やしたいな、という思いがあります。二つ目に、生徒への個別の関わり方です。まず生徒一人一人に応じた支援ということで、さきほども言ったように、勉強が得意な子もいればそうでない子もいて、進度もそれぞれさまざまです。そうした子にどのようにアプローチしていくのか、支援していくのかというところは、わたしたちも常々考えていくところです。もう一つは、学習意欲をどのように上げていくかということで、なかなか勉強に取り組むやる気が出なかったりということがよくあります。そうした時には、無理やり勉強させるのではなくて、話題を変えて話してみたり、場合によっては一時間まるまる勉強以外の別のことをする、

という時もあったりします。そうしたように、学習意欲をどう上げていくのかというところは、やはり学習成果を出す上では量をこなさなければいけないということも必要になってきますので、課題だなと思っています。

まとめると、まずは「学ぶことが楽しい！」と子どもたちが感じられるようになって欲しいなと思います。やはりわたしたち大学生の一番の役割としては、学ぶ楽しさに気づかせるということだと感じています。そして二つ目、「また来よう！」「また来たい！」っていうふうに思える、継続して参加できる教室づくりをしたいなと感じています。自分から「行きたい！」と思える場所に、自主的に土曜塾に参加してほしいなと感じています。ただ、自分から行きたいと思える場所にするには、学ぶのが、勉強が楽しい、学習が楽しいという気持ちを持たないとできませんし、逆に学ぶ楽しさに気づくためには、まずは教室に来てもらわないといけないということがあります。この学習支援と楽しい雰囲気づくり・通い続けられる教室づくり、この二つの課題に挑戦しています。これからも工夫を続けて、子どもたちのためにできることを考えていきたいなと思います。

以上で土曜塾のご紹介を終わります。この後、みなさんの意見をお聞きして、お話しできることを楽しみにしています。ありがとうございました。

【進行・富田さん】

浅野さん、ありがとうございました。非常に分かりやすく、説明いただき、ありがとうございました。背景がなんですか、段々畑のようですが…。

【浅野さん】

はい、実家なんです。

発表者へインタビュー

【進行・富田さん】

行ったことがあるような気がします。

のちほどまたいろいろとおうかがいしたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、発表者のみなさん、マイクをオンにさせていただいても良いですか？画面で確認できないので、聞こえているものとして進めていきますね。

まず順番に、補足的に聞いてみたいと思うのですが、伊予農業高校さん、聞こえますか？はい、日曜日にお疲れ様です。大変ですね。うんざりしている人、いませんか？手を挙げてみてください…。いませんね（笑。はい、ありがとうございました。「Micro Plant Factory」と聞いて、カッコイイなと思ったんですが、最初にマリーゴールドと白菜ですか、ペットボトルの上から白菜の葉っぱがのぞいているような感じだったんですが、白菜というと、今、ちょうどお鍋のシーズンで食材としてよく使いますが、あれは、あの後どうなるんですか？あれがそのまま育つとペットボトルが破裂する、、、なんていうふうにも思ったんですが、あれはどうなるんでしょう？

【伊予農業高校・生徒さん】

大きくなります。

【進行・富田さん】

2リットルのペットボトルですよ？あれが膨らんでくる？ペットボトル型の白菜になる？

【伊予農業高校・生徒さん】

気にせず大きくなります。

【進行・富田さん】

ほほー！なるほど、おもしろいですね。まだ育ってはないんですかね？実際に食べられるようになったものとかはあるんですか？

【伊予農業高校・生徒さん】

あります。

【進行・富田さん】

あるんですね！それはぜひ、今度機会があればお鍋にさせていただいてみたいなと思いました。

わたし、正直、一代目とかを見せてもらった時に、ただペットボトルで水の中に何か植えて育てているだけと思ったんですが、四代目になるといきなりファクトリーになっていましたね。四代目、いろいろと改良を重ねて4G。次はいよいよ5Gになってくると思うんですけど、その5Gに向けた意気込みを聞かせていただけますか？

【伊予農業高校・生徒さん】

植物工場の要素を、、、要素を、、、もっと強く、より、、、強く、、、取り入れていきたいと思います。

【進行・富田さん】

ちょっと何言ってるか分からないんですけど（笑

【伊予農業高校・生徒さん】

（一同爆笑）植物工場の要素をもっと強く取り入れていきたいと思います！

【進行・富田さん】

なるほど～分かりました。ありがとうございます。

中々ですね、ICT教育、タブレットの活用というのも入っていたと思うのですが、小学校との交流の中で使うのかなと思ったんですけど、タブレットってどういう場面で使うんですかね？

【伊予農業高校・生徒さん】

リモート学習・リモート交流する時にZoomを使ったり、交流学习で使う冊子を作成する時の写真を撮影したり、記録を取ったりしました。

【進行・富田さん】

なるほど、教材の一つとして使うんですね。

発表の中でちらっとだけで詳しい中身は見えなかったんですけど、冊子ですね、あれがすごく良さそうなテキストだなんていう感じがしました。ああいったものも、いろいろな場面で表に出していただけるといいなと思いました。

で、この水耕栽培は、ご家庭にペットボトルがあれば気楽に始められるものなんですか？

【伊予農業高校・生徒さん】

大丈夫です。できます。

【進行・富田さん】

できます？そういったものも、今度ホームページなどで「家庭でできる水耕栽培」みたいなものを、Youtubeとかでも良いと思いますけど、そういったものを見せていただけるようになったら楽しみだらうなと思いました。

【伊予農業高校・生徒さん】

ホームページに、一応載っています。

【進行・富田さん】

あるんですか！それじゃあ早速白菜にチャレンジしてみようかと思います。

【伊予農業高校・生徒さん】

頑張ってください。（一同爆笑）

【進行・富田さん】

頑張ります（笑。ありがとうございます。じゃあちょっと待っててくださいね。

続きまして土曜塾、、、いや、土曜学習の富田先生。だいたい同じような字を見ると遠くの親戚かと思うんですけど、微妙に・・・かなり違いますね、とみ「だ」先生、ありがとうございます。

土曜学習ですが、実際に土曜日にやっている学習ということですよ。

【富田先生】

基本的にはそうです。例外もありますけど。

【進行・富田さん】

これは毎週というか、たとえば小学生は夏休みだったり通常の授業の時もありますが、どういう時にどれぐらいの長さで？

【富田先生】

附属小学校が用事がある時は開催されないのですが、また、夏休みにも開催されなかったのですが、そういった日を除いて毎週土曜日、今は午後1時から午後3時までやっています。

【進行・富田さん】

じゃあ本当に、長期の休み以外はずっとある、という感じ？

【富田先生】

そうですね。長期の休みの時も、例外として、さきほどご紹介したインタビュー（Zoom 利用）のようなことは夏休みを活用してやりました。

【進行・富田さん】

最初、この発表の前に「子ども主導のプラごみ激減プロジェクト」というタイトルを見てですね、SDGs というキーワードもあったので環境教育なのかなと思ったら、実は読解力の育成だったということを知り、目からウロコというか、なるほどな、そこではっきりこれはすごいなと思ったんですが。

【富田先生】

ありがとうございます。

【進行・富田さん】

子どもたちの力を上げていく、それは関わる大学生のみなさんもそうだと思いますが、ここにねらいを置いたっていうのは、何かきっかけや理由はあるんでしょうか？

【富田先生】

はい。背景としては文科省の募集する事業がありまして、その中でわたしが興味を持った形で今回のような取り組みを提案させていただきました。もう一つは、本学の同僚の先生方、SDGs に関心が高い竹下先生をはじめ専門家の方、社会科の先生も市民性の学習というか市民教育というか、主権者教育ですかね、その専門の井上先生、ESD ラボという形で活動されている藤原先生、そういった方々が近くにいらっやって、かつ協力していただけるということだったので、こういう形になった次第です。

【進行・富田さん】

なるほど～じゃあ美味しいところ取りというか、いろいろな先生のいろいろな思いというのをうまく合わせて始められたような感じですかね。

【富田先生】

はい、本当にそこは幸運なところだと思います。人に恵まれたと。

【進行・富田さん】

で、児童 6 名参加で、さきほどの PR ビデオですね、上映会のお知らせの中にも出てきましたけど、子どもたちの変化もそうですが、今日はみんな引越し等でいらっやらないということでしたが、学生さんたちはこれに携わっていて、学生さんたち側の変化みたいなものっていうのを感じたりはありましたか？

【富田先生】

そうですね、学生本人にはそれぞれあると思うんですけど、わたしの方から見て思うのは、子どもの意見を引き出すのを、かなり粘り強く、あの手この手と、、、以前は割とあっさりしていたと思うんですけど、今は本当にしっかりと引き出してくれている感じがします。中でもやっぱりすごいと思うのは、時間がありますよね、1 時間なら 1 時間、30 分なら 30 分、その中でかなり結果を引きだして

くるので、かなり指導力が付いてきたんじゃないかと思います。そこって、実習というのは全体指導なのでなかなか力が着く機会がないんです。個別の子どもへの介入って苦手意識が強い学生が多いんですけど、そういうところは力が付いているなど感じます。

【進行・富田さん】

早速、「うちでもやってよ」という声も上がっているようですので、他にも「うちでもやってよ」という声も上がっているようですので、学校、学童クラブの関係者の皆さん、土曜学習も日曜学習も、残業・時間外学習・・・と、そうとう忙しくなるかもしれませんが、たくさんリクエストしていただけたらと思いますね。

先生、どうもありがとうございます。またあとでうかがいますね。

それでは今度は土曜塾の浅野さん、よろしくお願いしますね。いや実に素晴らしいというか、僕は松山市の隣の隣の伊予市ですけど、うちのまちでもやってほしいなと非常に強く思いました。125人の生徒さんの中で実質的な参加者が3割というお話でしたけど、これはどういうことか、説明してもらって良いですか？

【浅野さん】

はい。年度はじめに対象となる中学生にまずお知らせを送りまして、参加希望を募ります。そこで「土曜塾に参加したいです」という希望をいただいた家庭が125なんですが、実際に来てくれて、学習に参加してくれる子は今のところ3割ということですね。

【進行・富田さん】

なるほど、まずは対象となる生徒に一齐に「こういうのやりますよ」と案内して、「参加しますよ」と返ってきたのが125人。だけど実際に来てくれたのは3割、ということですね。

【浅野さん】

はい。一度来ても2回目以降来てくれない、という方もいます。

【進行・富田さん】

来なくなっちゃったり、、、そういうことですね。ここやっぱり、発表でも挙げてくれてましたけど、課題ですね。まずその一番最初に全ての対象となるご家庭、漏れてるかもしれないですけど、そこに案内をして、そこから来た125人。それ以外にも、125人以外にも、そこにまたいて。「参加します」と言ったんだけど、どういう事情なのか、これはもしかしたら土曜塾側の問題ではなくて家庭の側の問題なのかもしれませんが、2回目・3回目が行けなかったりとか。これはもう本当に、大学生のみなさんもそうですけど、行政とかいろんなところで考えなければいけないことなんだと感じました。

で、その中でですね、大学生のみなさんがマンツーマンですよ、ほとんど。一対一でお勉強を教えているということなんですけど、そうすると今、ボランティア学生さんというのはどれぐらい登録されているんでしょうか？

【浅野さん】

ボランティアは30名ほどですね。3教室に10名ほど分かれて配置されているという感じです。

【進行・富田さん】

もちろんボランティアですから、時給のようなものもないですよ。

【浅野さん】

この取り組みなんですが、学生ボランティアという立場ではあるんですけど、有償でのボランティアという形式をとってまして。

【進行・富田さん】

なるほど、多少の報酬は出るということですね。それを聞いて安心しました。あまりね、大学生、はっきり言ってお金ない人が多いので。どうしても、参加したくても「いや、どこかでアルバイトした方がいい」って思ったりもしますので、そういった活動に報酬が出るというのはすごく良いなと僕は思いますね。ボランティア活動にも何らかの報酬が出るということが良いなと。

【浅野さん】

学生としても、「お金をもらいに行きたい」という思いではなくて「学習支援をしたい」という思いが第一にありますし、そういったところがあるんじゃないかと思います。

【進行・富田さん】

そして今はできていないということでしたが、バーベキューの写真やレクリエーションのみんなで楽しむ写真とか出てきましたが、けっこうこのへん重要だと思うんです。お勉強してる時と、レクリエーションとかしている時の子どもたちの姿を見て、何か感じたようなことはありますか？

【浅野さん】

そうですね。いろいろな困りごとを抱えていたりとか、各学校で、日常生活でいろいろあったりとか、そういう話も、土曜塾に来てくれると話せるという子も結構いるんですよ、実際に。そういう姿を見ていると、やっぱりここが彼らの居場所の一つにもなっているのかなと思います。わざわざバスで30分以上かけて来てくれたり、自転車で10分以上かけて来てくれる子もいるので、やっぱり「来たいと思って来てるんだよ」というのを聞けると嬉しいですね。

【進行・富田さん】

そうですね～そういうのが本当にやりがいになりますよね～。そういう中学生が、今は大学生と五つ六つ歳が違うかと思いますが、もしかしたら社会に出てからまた会ったりすることもあるんじゃないかなと思います。その時にとても立派な社会人で頑張っている姿なんか見たら本当に感動するんじゃないかなと思いますよ。

【浅野さん】

実際に土曜塾に中学生の頃に参加して、今、大学生になって、次はサポーターとして参加している子もいて、本当に、大きな影響を与えているんだなというのを感じます。

【進行・富田さん】

進学率もほとんど 100%ということで、その支援というのをぜひ継続して行ってほしいなということと、松山市以外のところにももしかしたらあるのかもしれませんが、県内、また全国的にも広がりを見せていってくれたら嬉しいなと思います。

【浅野さん】

富田さん、チャットの方に、土曜塾に関しての質問も来ているようなのですが。

【富田さん】

はい、今日はスタジオに武智さんという方を派遣しております、そちらから。
スタジオの武智理恵さん？

【リポーター・武智さん（実行委員）】

はい、武智です。

【進行・富田さん】

チャットがですね、僕の方では読み取りにくいので、会場の方から質問がありましたら。

【リポーター・武智さん（実行委員）】

はい、質問と発表者の方々からのメッセージも届いております。時系列で参ります。

伊予農業高校の方ですが、連携を考えていらっしゃるそうです。「商業高校との商品開発なんてコラボもおもしろいかな」というメッセージをいただいています。

続いて土曜学習、土曜塾についての質問になるかと思いますが、「コロナ禍での実施状況が知りたい」というもの。また、「参加の子どもたちから運営やプログラム内容への希望等を聞く機会というのがありますか？」

そして浅野さやかさんに「大学生が考える『行きたい場』ってどういうところでしょうか？」という質問が来ています。

富田さん、以上です。

【進行・富田さん】

ありがとうございます。全部読み上げましたね（笑。どこから行きましょうか？

【リポーター・武智さん（実行委員）】

では、ご質問の「大学生が考える『行きたい土曜塾とは』」についてお答えいただけたらと思います。

【浅野さん】

はい。やっぱり「行きたい」ってなるには、端的に言うと「勉強をしに行く場所」なので、やはり「学習が楽しい」って思ってもらえることが第一かなと考えています。わたしたちは楽しい教室づくりと学習支援の二つの課題に取り組んでいると申し上げたんですけど、これは本当は別々の相反する課題ではなくて、一緒になるべきものなのかなというのを感じています。楽しいから行きたいし、そう

したら学習効果も高まるっていうふうに、この楽しい教室づくりと学習支援というのを一緒に回せていけたらいつも思っています。

【進行・富田さん】

ありがとうございます。武智さん、他には何かありましたっけ？

【リポーター・武智さん（実行委員）】

はい、土曜塾と土曜学習さんと両方に関わってくると思うのですが、ダイナミックに世界が変化したコロナ禍にあって、どういうふうに運営・実施していったかということ。そして、参加の子どもたちにアンケートを取ったりして声を拾っているのかということ。みなさんお聞きしたいようです。

富田先生はチャットに書いてくださっていましたので、土曜塾の方を。

【浅野さん】

はい、分かりました。まず、コロナ禍での状況ということですが、土曜塾は教室が青少年センター等の公的な施設ですので、松山市のコロナに対する方針によって休館したり開いたり左右されます。なので、今またコロナが増えてきているので、半休館という扱いでして、やはり集まってしまうと感染リスクが高まってしまいますので、サポーターが一人教室に常駐していて、もし質問があったら連絡してくる、というような体制をとっております。コロナ禍での状況で、今、そのような運営体制です。

もう一つのプログラム内容に関する要望を聞く機会がありますかということについてですが、今回わたしが土曜塾の発表をさせていただいたんですが、育成市民会議の事務局長、そして青少年センターのセンター長・西川さんも参加しておられますので、直接西川さんにお聞きしたいと思うのですが。

【西川さん】

はい、じゃあわたしの方から。フィードバックするようなタイミングがあるかどうか、ということですが、参加した子は、帰る前に「学習記録」ということで、その日にあった学習内容やサポーターに対する感想だとかを書いて帰ることになっているんですが、それは紙ベースで書くんですけど、それを事務局の方で入力しまして、サポーターにちゃんとフィードバックするような仕組みを。

それから、各家庭からの意見みたいなものについては、これは年に一回なんですけど、たとえば途中で来なくなった子がいたとしたら、その子がどういう理由で来なくなったのか、どこまで情報が取れるかどうかは置いておいて、家庭からの意見をもらおうと。

（子どもたちから）毎週取る方法と、年に一回家庭から取る方法と、です。これで答えになりますでしょうか？

【進行・富田さん】

はい、大丈夫です。

時間もなくなってきましたが、今の時間でわたしもチャットの内容を確認できました。「伊予農のみなさんが関わった佐礼谷小学校の校長先生のコメントが聞きたいです」というのがありまして、佐礼谷小学校の校長先生、今どなたでしょう？今日いらっしゃいますか？

【佐礼谷小学校校長・中尾先生】

は～い！一人います。

【進行・富田さん】

いた！お一人いますね。先生、あまり時間がないので、簡単に。関わった子どもたちの様子とか教えていただけませんか？

【佐礼谷小学校校長・中尾先生】

はい、まずですね、伊予農の先生からお話があった時、地域教育実践交流集会在縁で、そこで発表されていた、さらにグレードアップしたものを小学生とやりたい、というアイデアをいただいた時に、もう地域教育でつながっている人の頼みは断れない！と、一緒にやることになりました。

やはり、高校生の力がとにかくすごい！というところですね。小学生、高校に連れて行って、一つ一つ丁寧に全部教えてくれましたし、コロナの影響でリモートで交流をしないといけなくなったのですが、ブレイクアウトルームで各学年分かれて、高校生がリードしながら、30分～40分、授業を進めてくださるんですね。実際に実物も学校に持ってきてくださって、それを見ながら、学年に応じた学習ができる。もう「すごい」の一言です。

高校生の力って、自分が高校生の時にこんな力ってあったかなとすごく思いますけど、小学生に教えなくちゃいけないという思いで、MPF というのも開発するし、教えるということのために準備をたくさんするし、その成果や結果を自分たちでまとめるし、今日のように発表もしてくださるし。もう全ての活動において、本当にありがたいな、すばらしいなという、その一言です。

いろんな学校とコラボしてやれると、もっともっと伊予市の中で、農業というものに関心を持つ子どもたちが増えるのかなと思います。うちの学校の子どもも「僕は絶対に伊予農に行くんだ」という、そういう子たちもいますので、そういう効果もあったかなと思います。わたしからは以上です。

【進行・富田さん】

ありがとうございました。時間がないので短めになってお願いしたらさすが校長先生、少し長めにお話しいただきまして（笑、ありがとうございました。そんな伊予農のみなさんに松山工業高校さんからチャット入ってまして、「栽培関係を農業高校、LED等の技術関係を工業高校、販売や商品開発を商業高校なんてコラボもおもしろいかもです」と。今、中尾先生も「他の学校との連携もいいんじゃないの」って仰ってましたので、そういったところもできてきたらおもしろいと思います。

僕も気になった水耕栽培キット、「作成方法は過去の伊予農業高校ホームページ記事にありますので、ぜひご覧ください」「ちょっと分かりにくいところがあります」とのこと、分かりやすいところに置いていてくださいね、ぜひ。

そんなところで、休憩時間に食い込んでしまっていますので、このへんでお開きにしたいと思います。この後ブレイクアウトルームとかもありますので、それぞれのみなさん、どこに参加されるのか分かりませんが、その場で、今日聞いた話などについて意見交換してもらうのも良いのかなと思いますので、この後も、今日の会を楽しんでいただけたらと思います。

それではスタジオさん、おかえしします。ありがとうございました。



【司会・石丸優羽さん（実行委員・松山東雲女子大学学生）】

富田さん、発表者のみなさん、ありがとうございました。只今から14:40まで休憩に入ります。カメラはオフ、音声はミュートにしてください。14:40にカメラをオンにしてお待ちください。

ブレイクアウトセッション

【司会・石丸優羽さん（実行委員・松山東雲女子大学学生）】

それでは時間となりましたので、ブレイクアウトセッションを始めます。

グループ内のファシリテーターは予め事務局で決めさせて頂いております。ファシリテーターの方は、各グループで、発表者を決めておいてください。

まず、各グループ内で自己紹介をします。お題は、「地域の好きなところ・自慢できるところ」です。一人30秒〜1分をお願いします。

その後、実践発表を聞いての感想、皆さんの活動のアピールや悩み、これから新たに取り組んでみたいことや夢などを視点として、忌憚無く話し合ってもらえればと思います。ブレイクアウトセッションは15:25に終了します。

ブレイクアウトルーム（8ルーム）に分かれますので、ファシリテーターの皆さんよろしくお願いします。

（幅広い顔ぶれになるようにあらかじめ5〜7人ずつに分けておいたメンバーでブレイクアウトセッション開始）

【グループ5の概要・ファシリテーター武智さんより】

「高校生・大学生がとてもしっかりしている。内容についても自分たちで課題を見つけ実践し、また諦めずに続けていく…今、行っていることは社会に出ていく上で大きな力となる。」

「学生が主体となって動いている。自分が防災リーダーとして活動するとき、今日の気づきを活かそうと思う。」

「伊予農業高校生物工学科の取り組みとして、バイオテクノロジーで育てた蘭などの花をウェルピア伊予・しおさい公園などに持って行き植えている。この活動はいつから始まったかはわからないが、かなり以前から継続されている。自分の科も、もう少し地域と交流できたらいいと思う。」

「伊予農業高校と佐礼谷小学校との交流を聞き、良いなと感じた。勤務する学校にも来てもらいたい。」

「生徒・学生が学びの歩みを止めない方策としてICTの活用が挙げられる。タブレット学習、子供たちはあつという間に使いこなしてしまう。音読の宿題もロイロノートで行なっている。」

「新型コロナが収束した後もオンラインを有効的に使う学習は必須である。」

「オンラインだと会話をしたり、遊ぶ人もいる。以前の様な板書がいいなあ。」

「大学の授業とは別にお寺で行なっている『てらごや』そして月2回子ども食堂も開かれ、そこで活動をしている。」

「中予ブロック集会に参加するまで小学生の子どもたちに ICT 授業ってどう行ったら良いのか？と分からないと思うことばかりだった。今日、参加して発表を聞くことで自分でもできることがある、と気づいた。」

(ブレイクアウトセッション終了)

グループごとの発表

【司会・石丸優羽さん（実行委員・松山東雲女子大学学生）】

これから各グループで話し合った内容について、全体でも共有したいと思います。各グループの発表者の方2分程度でご発表をよろしくお願いします。グループ1の方から発表をお願いします。

【グループ1・松山工業高校の生徒さん】

わたしたちのグループでは、3 団体ともとても魅力的な取り組みで、小学生と大学生だったり、大学生と中学生だったり、異世代の交流やつながりを大事にしている、とても意欲が伝わってきて、前向きな活動だなという感想をそれぞれみなさん持っていました。

また、土曜塾等の課題について話し合ってみました。その中でも、来てくれる子どもたちへの配慮や工夫、なぜ来れないかなどをアンケートに書いてみるということを考えるのが大事なかなというのも話し合いました。松山工業高校についてもみなさん興味を持っていただいたので、少し宣伝させていただきます。松工のホームページを開いてみると「防災×SDGs」というサイトがありますので、わたしたちの活動をぜひ見てみてください。

【グループ2・松山工業高校の生徒さん】

2 班では、各自が行っている取り組みについて話し合いました。コロナウィルスの影響で活動が制限される中、地域の方々や団体の方々と協力することが大事だと思いました。ロイロノート等の ICT の活用で、思考の流れを確認できたり、宿題の提出をしたり、教育の変化を身近に感じることができました。課題としては、地域の方の協力や啓発活動が必要という意見が出ました。

さまざまな年代の人と交流して、いろいろな活動を知り、意見を交換できて、有意義な時間を過ごすことができました。これで終わります。

【グループ3・中島さん（愛媛県教育委員会）】

発表の中で出てきた伊予農業高校さんと浅野さんが一緒に、ちょうどそこに松山商業高校さんが加わったので、松商と伊予農のコラボができるといいですね、という話になりました。あと、伊予農さんが佐礼谷小学校で小学生にいろいろと授業をしたということで、「苦労はどんなことがありましたか？」という話をしたら、「Wi-Fi 環境が良くなって、途切れ途切れになってうまく伝えられない時があったりしたんだけど、すごく自分自身が思考力が身についた」という感想もありました。

学校の先生が入ってまして、土曜塾の浅野さんに「どんなふうにしたら勉強嫌いをなくすことがで

きるか、意欲を引き出すことができますか？」という質問があったり、逆に浅野さんから「こちらこそ教えてください」という話の中で、高校生に実際に聞いてみると、「どんな授業をする先生が良いと思いますか？」と聞くと、「コイバナをする先生がおもしろい」と。その意見を伊予農の先生にどう思うか聞いてみよう！というところで時間が来てしまいました。続きが聞いてみたかったです。

以上です。

【グループ4・松山工業高校の生徒さん】

松山工業の石丸と申します。わたしたちのグループでは、まず前半に土曜塾などのことの質問や応答をしました。

その後、自分たちの地域について発表し、その地域で悩んでいることや「こうしたい」「ああいうことをしてみたい」という自分たちの要望を言い、それについてみんなで話し合いました。地域の問題点などを見つけて、それをどうできるか等、高校生二人が中心になって答えたりして良い話が出来ました。

【グループ5・大学生 楠さん】

大学生の楠彩菜と申します。わたしが話し合いをしたグループでは、それぞれの三つのグループの感想を言いました。その中で、「若い時に諦めずに続けることが社会に出たときに通ずるものになるんじゃないか」という意見が出たり、高校生の方や大学生の方が地域との交流や学校と連携をしているということが多くて、それが全体に広がって行けばいいのではないかという意見が出たり、コロナが流行したことによりICT教育が学校でも多く利用されるようになってきたので、コロナが収まった後も、ICT教育の良さがそのまま続けていけたら良いなという意見がありました。あとは、実際に現場で教師として仕事をされている方がいて、小学生がタブレットを使用しているという点について「Wi-Fiがない家庭だとどうされてるんですか？」という質問に対して、学校・行政の方からWi-Fiを貸し出しているということを仰っていました。

最後に自分の夢を語って、わたし個人が思ったのが、高校生が実際に今学校で活動していることが将来の夢につながっているんだなと感じました。



【グループ6・松山商業高校の生徒さん】

こんにちは。松山商業高校2年の亀嶋ひなと申します。よろしくお願ひします。わたしたちのグループで話し合った内容は、一組目の伊予農業高校さんの発表では、「交流学习では年齢の近い高校生が教えることで普段とは違う環境で学べるので、目がキラキラしていた」と佐礼谷小学校の校長先生が仰っていました。また、キットでは、屋外だけでなく、屋内で家に持ち帰って育てて学ぶことができ

るので、より身近なところで学べるというところがとても素晴らしいと思いました。

二組目の愛媛大学さんの土曜学習では、プラごみ激減プロジェクトやミュージカル等をはじめ、小学生のうちから関わって、そのようなことを考えていけるのはとても大きくて大切な経験だと思いました。

最後に、三組目の土曜塾では、わたしたちが普段何気なく受けている授業も、この土曜塾では「学ぶことが楽しい」と思えるような環境で受けられるので、とても魅力的だと思いました。

以上です。

【グループ7・松山商業高校の生徒さん】

グループ7の松山商業高校・重松です。わたしたちの班では、実践発表を聞いた感想をふまえて、主に大学生のみなさんがどのような活動を行っていらっしゃるのか、サークルや児童文化研究会等の詳しい活動内容を聞きました。

そこでどのようにしていろいろな人を集めたりしてボランティアを行っているのかということに疑問を持って、質問をしました。そうしたら、今はSNSが普及しているので、そういうものを駆使して、興味を持ってもらえるような写真や文章などを使って、人を集めているそうです。一人でするよりも同じ気持ちを持った人たちが集まって行うことで、よりやりがい等が感じられると聞きました。

以上です。



【グループ8・大学生 白方さん】

大学生の白方千晶といいます。最初に自己紹介をして、それぞれみなさん住んでいる地域が違って、それぞれに特徴や良さがあるとおもしろいなと感じました。その後、さまざまな立場の方がいらっしやって、コロナ禍での活動についての話になったんですけど、対面が厳しい中でもオンラインでいろんな工夫をして、オンラインの中でうまく交流していると感じました。

三組の発表を受けて、子どもたちの興味関心を活用したりとか、新しい取り組みがどんどんなされていることを知りました。地域の方が活動を知らなかったり、小学生があまり自分の地域の良さを分かってないんじゃないかという話が出てきて、認知が広まることで「協力したい」と思う方が出てきてくださったり、今回チャットにいっぱい出てきてたんですが、コラボが広がったりするのではないかという話になりました。コラボすることで活動の幅が広がったり、新しい視点が発見できたりしてより良い活動がどんどん広がっていくんじゃないかと思いました。

あとは自分の感想になっちゃうんですけど、今回参加して、いろんな世代の方やいろんな立場の方がいて、それぞれに違う考えを持っていらっしやったので、交流する機会は大切だなとあらためて思いました。いろんな活動を知ることができたので、参加できるものがあれば参加していきたいと感じました。以上です。

感想

【司会・浅野ひかるさん（実行委員・岡山大学学生）】

浅野ひかると申します。現在岡山大学の教育学部に所属しています。今日「土曜塾」で発表していた浅野さやかの双子の姉です。父、浅野長武も参加しています。身内の紹介ばかりですみません。

今日、みなさんのお話を聞いて、感想を3点述べさせていただきます。

まず一点目。いろんな立場、それから年代の人と関われることのすばらしさというのを、わたしはとても感じました。わたしがこの集會に初めて参加したのは、高校1年生か2年生ぐらいの時だったと思うんですけど、時の経つのははやいもので、はやわたしも社会人になろうかというところなんですけど、その時はまさか今、こんなご時世に、こんな状況になっているとは思っていませんでしたし、いろんなことがこの数年間で変わったなと思っています。この集會の今回の実施方法ももちろん変わりましたが、そこで出てくる話題というのも変わっていったらなと、たった数年のわたしが感じているぐらいなので、もっと参加歴の長い方々などは、わたし以上にそんなことを感じられているのではないかと思います。でも、内容とか方法とかは移り変わっていくんですけど、やはり自分とは違う立場の方々、違った年齢の方々と、こうやって意見を交換できたり交流できたりするということが本当にすばらしいなと今日あらためて思いました。

二点目、つながりの大切さ。今日のわたしの班の中がコラボの応酬で、「コラボしませんか?」「コラボしませんか?」と。みなさんどんどん自分の取り組み、仲間の取り組み、そういったものを聞いて、新たなつながりができているなという印象を受けました。発表を聞いていてもそう思ったんですけど、やはりこういった場で共有することで、今までの、もともとある枠を超えたようなつながりができるというのは本当に嬉しいことですし、素晴らしいことだと思いました。

最後、三点目、地域を思う気持ち。わたしは前々からふるさとが大好きだったんですけど、今日みなさんのお話を聞いていると、それぞれの地域のこと、それぞれが行っている取り組みのことに、すごく自信や誇りを持たれているなと感じておりました、そういったお話を聞くと、さらに愛媛が好きになる気持ちが高まりまして、今、岡山に住んでいるんですけど、来年・再来年、ぜひ帰りたいたいなど。愛媛に帰ってまたみなさんと楽しいこと・おもしろいことができたならなとワクワクしながら今回のお話を聞かせてもらいました。

以上のようなことです。

それではこのまま閉会行事に移りたいと思います。閉会行事に移ります前に、アンケートについてご協力をお願いします。今画面に映していますQRコードを読み取っていただくか、チャットに添付してありますので、ダウンロードしていただいて後で読み取っていただくかして、ご回答ください。もし、QRコードを読み取れない方は、事前にお送りしております用紙に記入していただいてメールにて土井までお送りください。

アンケートの内容は、住まい・年代・所属・集會の開催をどのように知ったか、集會を通して、興味や関心がもてたか、集會に参加した理由となっております。

それではただいまから閉会行事に移らせて頂きます。閉会の挨拶を実行副委員長 谷川玲子が申し上げます。

閉会挨拶

【実行副委員長 谷川玲子】

副実行委員長の谷川です。今日、テーマを持って研究し、その成果を地域社会に発信し、貢献しようとしている高校生や大学生のみなさんの存在を知りました。若い方の知恵とやる気を求める地域社会と、地域社会に発信しようとしている若者とをマッチングする意味も、この会は持ってきたなと思いました。新旧若者が共に過ごし、地域社会でかかわり、力にするためには、オンラインの普及利用も地域社会の一つの形となってくるでしょう。新型コロナウイルス感染症拡大の中で、あきらめずに今日の会のために発表の形を考えてくださったみなさん、準備を進めてくださったみなさん、そして、なによりこの会に参加してくださったみなさん、これから地域で活動していく上で、必ず役立つと思います。お疲れさまでした。心から感謝します。ありがとうございました。

来年はぜひハイブリッドでまたお会いしましょう。ありがとうございました。

【司会・浅野ひかるさん（実行委員・岡山大学学生）】

以上をもちまして、第6回地域教育中予ブロックオンライン集会を終了いたします。オンラインでの集会で御迷惑をお掛けした点多くありましたが、スムーズな進行にご協力頂きましたことにお礼申し上げます。ありがとうございました。

それでは、皆さん退出ボタンを押していただいて御退出ください。本日はまことにありがとうございました。

参加者アンケート集計

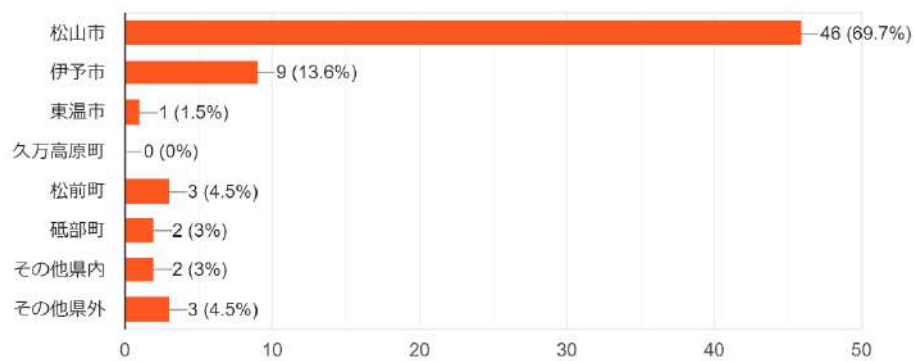
1 参加者について

- (1) 参加者数 98名 高校生 43名 大学生 12名 一般 43名 アンケート回答数 66名
(R2年度 141名 高校生 53名 大学生 22名 一般 66名)
(R元年度 125名 高校生 29名 大学生 36名 一般 60名)
(H30年度 121名 高校生 8名 大学生 40名 一般 73名)

(2) 参加者の居住地区

お住まいの地域を教えてください。

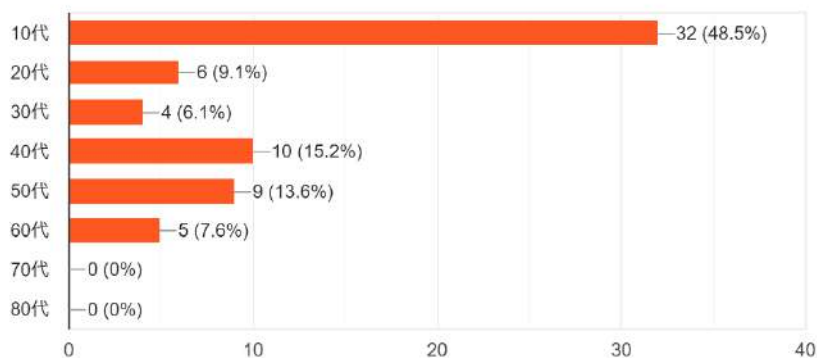
66件の回答



(3) 参加者の年齢構成

年齢を教えてください。

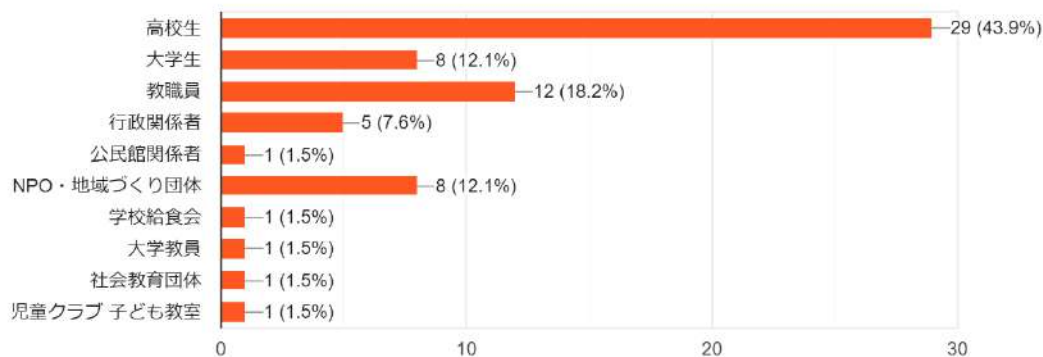
66件の回答



(4) 参加者の職種

所属を教えてください。

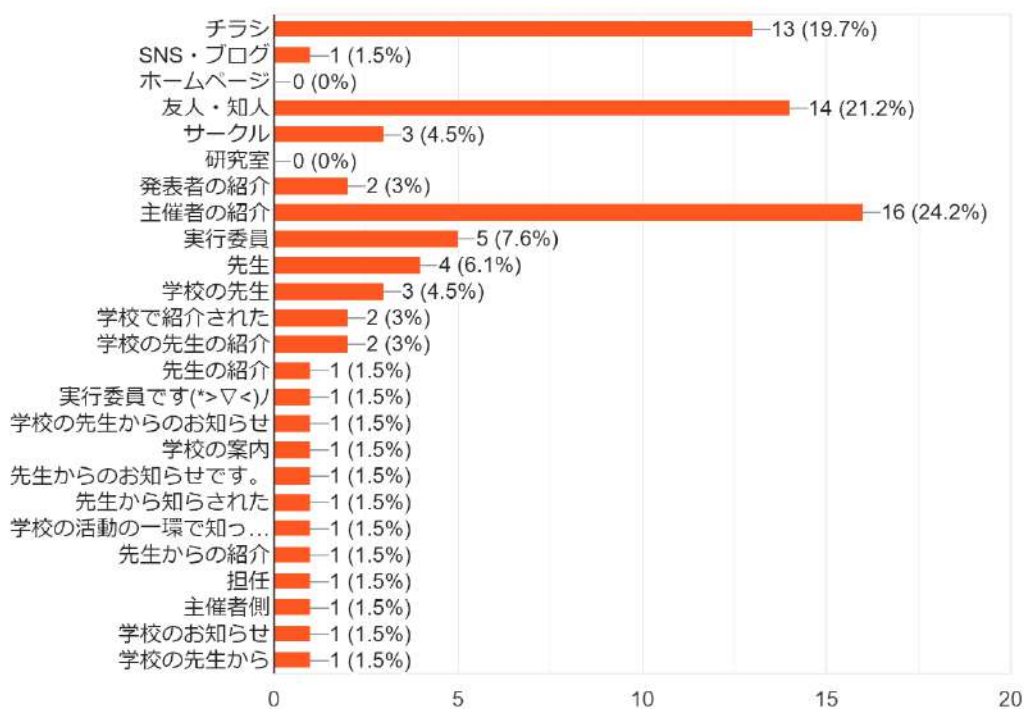
66件の回答



(5) 参加のきっかけ（複数回答）

今回の集会が開催されることを何で知りましたか。

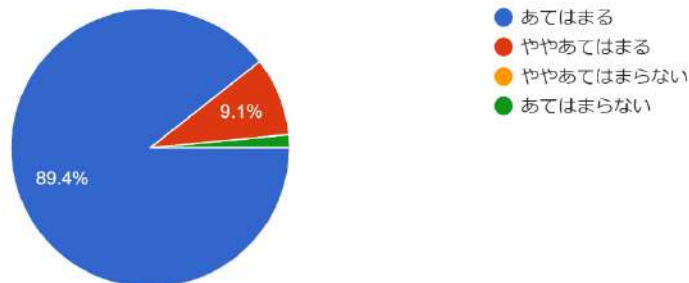
66件の回答



2 満足度（興味や関心の度合い）

☆実践発表、ブレイクアウトセッションを通して、新たな気づきがあったり、関係づくりにつながりましたか。

66 件の回答



3 参加した理由（主なもの）

(1) 高校生

- 様々な人の取り組みを知り、つながりを大切にしたいと思った。
- 地域との交流を深めて、改善点などを話し合えたらいいなと思ったから。
- 他の方々活動のコラボをしてみたかったから。
- 興味深そうだったから。
- 他の方がどのように地域を活性化しているのかを学びたかったから。
- 特定の人としか zoom の会議をしないのでこれを機に幅広い年代の人と交流できたらと思い参加した。
- 意見を交換することで自分たちの高校の特色を生かしたコラボなどの話が進められたのでとてもよかった。また、他の団体の人達の取り組みを知れたので今日学んだことを今後生かしたいと思った。
- 先生にやったほうが自分のためになると勧められたから。
- 同じ地域を活性化させる仲間として、意見を聞きたかったから。
- 発表内容に興味があった事と多くの方と意見交換をすることが好きだから。
- 内容が面白そうで勉強になると思ったから。
- 色々な団体が町おこしの為、未来の為にどのような活動をされているのか気になったため。
- 地域教育について関心があったから。
- 普段の聞くことのできない立場の人の活動や意見を聞いてみたいと思ったから。
- もっとたくさんの人と関わっていきたいから。
- 自分たちがやってきたことをたくさんの人に知ってもらいたいという考えから団体で参加した。
- コロナ禍で色々な活動や交流ができなくなったことで人とのつながりが減ったなかでこういったリモート交流をすることによって新たな学びや自分自身の考えを見つめ直し、自分も相手も得する活動だと思っているので参加した。
- 先生からの案内と、自分たちの活動について少しでも多くの方に知ってもらいたいと思ったため。

(2) 大学生

- 地元でどんな活動が行われているのか興味があり、教員を目指す上で様々な情報を知りたいと思ったから。
- 実行委員として、つながりをさらに広げたいと思ったから。
- 様々な年代の人の様々な取り組みや熱い思いに触れ、今後の活動の参考にしたいと思ったから。
- 昨年度、浅野さやかさんの紹介で一般参加者として参加し非常に有意義な時間を過ごすことができた。今年度は実行委員として参加させていただけることになり、本集会にも微力ではあるが運営の立場として参加させていただいた。
- 出身である松山市で教員になりたいと考えていて、少しでも愛媛県の教育に関する活動について知ることができたらいいなと思ったため。
- 高校1年次から参加しており、毎回さまざまな気付きや新たな発見を得ていたことと、オンラインでの開催ということで県外に住んでいる私も参加できるということが分かったから。
- 愛媛大学に通う友人から紹介をされ、私自身教育と地域とのかかわりについてとても興味があったため、参加させていただいた。
- 参加することで、色々な活動の取り組みをされている方々のお話を聞いてみたいと思ったから。

(3) 一般

- 変化していく社会教育や地域の情報を得たいと思った。
- 発表者からの要望で、発表をサポートするため。
- 発表のご依頼をいただいたため。
- 毎年参加しており恒例行事となっている。
- 実行委員として参加している。今回、プロセスとテーマを丁寧に考え、進むことができた。
- ここでできたつながりを今後の活動に生かせると思ったから。
- 様々な地域での実践を知りたかったから。
- 若者の実践を知り、わたしたちに何ができるか考えたかった。
- 実行委員として関わらせて頂いた。様々な年代や業種別(学生や社会人等)の活動や想いを聞いてみたい。
- 私は障害当事者である。いろいろな取り組みをされている中で障害者の事が抜け落ちてしまっていることが多い。こういった集会に進んで参加して、誰もが同じように社会参加できる環境作りを一緒に考えていただきたいと思い参加した。
- 高校生や大学生を応援したいから。
- 地域の理解を深め、つながりを広げたい。
- 関心があったから。
- 昨年度発表して、様々な方の取組を知るとともにコラボしたいと思ったから。
- 勉強。
- 自分よりも若い学生や生徒が行なっている取り組みに興味があったから。
- また、さまざまな人との交流が非常に魅力的だったから。
- 去年も参加させていただいた。いろいろな世代の方の意見を聞くことができ、自分の活力とすることができるので参加させていただいた。

○社会教育に携わっているよう方々が、コロナ禍でどのようなことを実践し、考えているのかを知りたく思い参加した。

○つながりを作り、何かのカタチにしたいと考えたから。

○本校の校長より紹介を受けて参加した。

○ご縁があつて。

○多様な実践を知る機会になるから。

○中予管内における、様々な地域教育の取組（特に高校生や大学生の頑張り）が知りたかったから。

○情報収集や、活動をされている方との交流を求めて。

○高校生や大学生の地域での実践事例を聞いて、自分たちの地域でもいかせることがあればいいなと思い、参加させていただきたい。若い方のパワーの可能性を今まで以上に感じている。

○実行委員

4 意見や感想、来年度の改善点（主なもの）

(1) 高校生

○チャットを活発にして、出会った人たちがつながれるようにしたい。

○自然の環境保全について聞きたい。

○地域の子供たちのためにいろいろな活動が行われているのを知り、自分にも何か出来ることがあるのではないかとこのことを考えるきっかけになった。

○2つの発表を聞いて、新しい発見ができとても充実した時間を過ごすことができた。

○是非、農業・工業・商業のコラボを楽しみにしている。

○参加している方全員優しくてとても楽しく、いい体験になった。

○環境面であったり ICT の活用であったりと同じ高校生であっても活躍している人がいるんだと思いついと思った。

○日々情報が発展するなかでそれに伴って変わっていかないと追いついていけないんだと感じた。

○色々な世代の人の意見を聞いて良かった。今後の授業に役立てたい。

○同年代のかたでも、すごい活動をされているんだなと思い驚いた。たくさんの年代のかたの意見をきけて楽しかった。

○自分が知らないところで行われている取り組みを知ることができて良かったです。

○同じ地域を活性化させる仲間として、貴重な意見が聞けてとても良い機会となった。

○これからの授業で、今回の意見を参考にしていきたいと思う。

○コラボ楽しそうだと思った。

○発表者にいつ質問すればいいか、分かりづらかった。

○すごく良かった！今回の集会で色々なことを学んだ！

○いろいろな年代の人とコミュニケーションをとれる機会はとても大切だと感じた。

○内容が少し難しかったが、たくさんの人と交流することで、色々な意見が聞け、将来に役立ていこうと思った。

○未来の若者、環境、職業に着目し様々な観点から改善点を考えて自分達なりの取組を行っていたのがすごく印象に残った。

○また、様々な年齢の方と交流することでたくさんの意見が得られる良い機会になった。

- この経験をこれからの人生に活かしていきたいと思う。”
- ブレイクアウトルームの時間が短く感じたので、あと5分?10分欲しい。しかし、違う年代や環境の方と意見が聞けたのでとてもいい経験となった。
- 初めてこの地域教育の集会に参加して、色々な人の意見や経験を聞き、もっと自分にできることがあるんじゃないかなと思った。これから、社会をより良くするために色々なことに貢献していきたいなと思った。
- 読解力の向上によって環境問題への関心がある子供たちが増えていったらいいなと思った。そして、その問題を解決する若者の案や意見などを活かして解決していったらいいと感じた。
- 同世代から普段関わりの少ない世代の人まで関わることができ、さまざまな活動を知ることができた。たくさん地域のことを思って活動している人がいて意見を交換し合える機会も素敵だと思った。
- 仕方がないことだが、たまに声が聞こえづらくなって聞き取りづらかった。
- 感想としては、発表を通じてたくさんの方々から好評いただいてこれからたくさんの人たちと連携を取り合っていきたいなと思った。
- たくさんの人とのつながりを持つことで今後の自分を見つめ直すことができる、そして新たなきっかけを作れる場だと思っているのもっともっとこのような機会を増やしていったらいいと思う。自分自身農業高校生なので今農業をする人がだんだん減ってきているのもっと農業に興味を持ってもらいたいと思った。
- たくさんの方とのつながりを実感できたり、自分たちの活動について意見をいただいたりしたことで改善点が見つかったり、新たな発見を得られたので参加してよかったと感じた。

(2) 大学生

- 発表していただいたどの活動も、工夫が凝らされており、とても興味深かった。年齢、職業問わず様々な人と意見を交換する機会というのがこれまであまりなかったので、貴重な機会となった。
- 楽しかった！高校生や現職の先生方と教育の話で盛り上がった！個別にチャットを送りたかったが、それができなかったようなので来年は直接やりとりしたい。
- 高校生の方や大人の方々など、様々な年代の視点から意見を聞くことができ、本当に楽しかった。発表者の取り組みを参考に、自分ももっと様々な活動に取りくんでいきたいという意欲が湧いた。
- 年齢や性別、立場などが異なる様々な方と交流することができ、改めて本集会の良さを再認識した。このようなご時世だが、人と人との交流は「オンライン」という新たな手法を通して実現可能であることを感じ、今後も継続して行っていきたいと感じている。
- 対面が厳しいコロナ禍ではあるが、そんな中でも工夫してオンラインで交流したり取組を行ったりして、オンラインでの活動にまだまだ可能性を感じた。また今回、コラボの話が多く飛び交っていて、知ることは世界を広げることができると思った。教員を志望しているが、学校では実施することが難しいことも、地域の方や組織の方に協力してもらうことで、子どもたちに多くの体験をさせてあげることができるのではないかなと思った。そして、様々な年齢、立場の方の考えを聞いて、参加できる取り組みがあれば積極的に参加したいと思った。

- 毎年参加させていただいており、毎回新たな学びをいただいている。今年も高校生大学生等、同年代の方々の取組をお聞きし、私自身も頑張らねばと更に強く感じた。このような素晴らしい機会をいただき、感謝している。
- 3つの実践例や、さまざまな年代の方々の話を聞くことができ、自分では思いつかなかったようなアイデアを聞いたり、子ども達の教育のために私たちに何ができるのかということをとまねたりすることができ、とてもよい経験となった。私は地域での自然体験活動と教育とのよりよい関わりについて興味があるため、それに関わるような実践例があれば、伺いたい。とても楽しく、勉強となる時間だった。
- 実践発表だけでなく、グループに分かれることで、色々な人の考えや見方を知ることができて、良かった。

(3) 一般

- 今年も高校生や大学生の今を知ることができ自分の活動の糧とすることができた。来年も楽しみにしている。
- 高校生…工業高校防災×SDGs。
- グループ以外の人とも少しだけでも交流できたらと思う。
- それぞれの特色を生かし世代を超えての実践を行っていることに、自分の活動と照らし合わせ、今後も参考にしながら取り組んでいこうと思った。
- この2年間コロナ禍で新しい関わり方を模索しながらやって来たが、これからも実際の会場とzoomの活用で更に発展される事を期待している。
- しっかり準備をされていて、とても良かったと思う。今日は視覚障害の方も参加していた。画面共有をする際に、今どういう画面か説明するなど配慮があったらよかったですかと思う。
- どの発表も素晴らしかった。
- 来年は対面でやりたい。
- 学生のスムーズな運営が素晴らしかった。世代や業種を超えたコラボ事例が知りたい。
- 司会進行等大変素晴らしかった。
- ブレイクアウトセッションの時間がもう少しあればよい。
- また、来年も、参加させていただきたい。
- 今年も、地域のために尽力されている方々の話をたくさん聞くことができ、大変勉強になった。特に、高校生や大学生が積極的に地域に関わっていることを知り、誰もが地域に関わり、つながっていきやすい時代になってきているのかなと感じた。コロナ禍で制限はあるが、今できることを、自分も探していこうと思う。
- 高校生や大学生の取組からたくさんの刺激を受けた。専門性を生かした取組を、今後私たち教員が連携しつつ主体的に活動することが重要であると感じた。
- 新たな学びがたくさんあった。また、高校生や大学生から元気をもらった。
- 何度か参加させていただいているが、高校生や大学生の頑張りが本当に素晴らしい。自分の若い時には考えもしなかったことを、こうして取り組んでくださることを頼もしく思う。引き続き、地域のために、愛媛のために、そして、自分も含めた多くの方々のために頑張ってもらいたい。
- 今年も高校生の取組や大学生の活動から気づきや学びを得ることができた。

○貴重な学びの機会をいただき、感謝している。zoomでの話合いにも少し慣れてきたが、実際に対面して、話すことが一番である。しかし、諸事情により移動が難しい方もあると思うので、対面での集会が可能になっても、すこしでも、オンライン参加の可能性を残して、ハイブリッドで開催も検討してほしい。

○自身のファシリテーション能力の低さを痛感している。

○新型コロナウイルス感染症拡大の中でも皆が、社会のために誰かのためにと考えて、歩みを止めず、方法を模索しながら行動していることが分かり、素晴らしいと思う。

○ひとつの目標にどうやったらたどり着けるかをいろんな側面からアプローチしている事例発表にも刺激を受けた。

○ブレイクアウトルームでも、幅広い年齢層の方を対象にした取組を聞くことができ、ここでしか聞くことが出来ない内容だと思った。

○様々な年代が交流でき、またそれに興味がある若い人が集まっているところが素晴らしいと思った。イベント自体が若者の社会性の向上につながっている。

○大変貴重な機会だと思うので、現職教員の方も気軽に発表できるような形になるとさらに素晴らしいと思う。また愛媛は隣に広島県と高知県という比較的実験的な試みが多くなされている間が隣接しているので、それらの動きをとらえる機会ともなればいいなと思う。大学としてできることがあったら、気軽に声を掛けいただければと思う。